

# この 10 年とこれからの 10 年

化学／繊維／金属部会  
部会長 伊藤 由実



## 1. はじめに

中国本部 化学／繊維／金属部会（通称：化学金属部会）は、2010 年（平成 22 年）に次のこととして目的として設置された。

- ① 資質能力（コンピテンシー）の向上
- ② 会員間の交流、コミュニケーション及び協力の推進
- ③ 専門技術を通じた「社会貢献活動」の推進

当部会が設立されて今年で 15 年が経過した。技術士会各位のご尽力により、当部会の活動には、部会員のみならず、他の部会や地域本部からも参加頂けるようになり、技術士会の中での存在感も大きくなつた。本稿では、過去 10 年の活動を振り返るとともに、これからの 10 年の活動方針を述べたうえで、さらなる部会活動の活性化と知名度の向上を目指す。

## 2. この 10 年の活動

当部会の主な活動は、例会と講演会、および機械/船舶・海洋/航空・宇宙部会、電気電子/経営工学/情報工学部会との合同見学会であった。講演会は 1~2 年、合同見学会は 3 部会の持ち回りでほぼ 1 回／年実施している。このうち講演会についてこれまでの経緯を述べる。

講演会の参加者数の推移を図-1 に示す。当部会は、化学、繊維、金属という幅広い技術分野の技術士からなる。このため、専門分野が類似する技術士は非常に少なく、共通の技術課題や話題はほとんどない。そこで当初の講演会では、それぞれの講演担当者の専門または興味のある内容で講演を行い、参加者も 20~40 名であった。

講演会改革として、2020 年度は「自動車産業の大変革に伴う材料技術・部品の進化」、2021

年度は「抗菌・抗ウイルス・滅菌の技術及び家庭における除菌・ウイルス除去対策」いうテーマで、それに沿った複数の講演を行つた。コロナ禍のため、オンライン講演となつことにより、自宅等から参加しやすくなり、参加者は増えた。特に 2021 年度は、コロナ禍に関するテーマであったことから、他の部会から多くの方が参加され、70 名以上となった。

また、2022 年度からは、会員の有志がテーマを決めて勉強会を開始し、その成果を会員が発表した後、外部講師がより詳細な解説を行う形式で、2023 年度の講演会を開催した（表-1）。

さらにこの講演会でご講演いただいた、国立研究開発法人 産業技術総合研究所（産総研）中国センターの佐藤センター長よりお誘いいただき、2024 年度に産業技術総合研究所中国センターの見学会を実施することができた

（図-2）。



図-1 2014~2024 年の講演会参加者の推移

表-1 2023年度講演会のテーマ、講演題目

第1回	テーマ	マテリアルズ・インフォマティクスの基礎と応用
	講演1(部会員)	データ解析・機械学習の基礎
	講演2(外部講師)	機械学習による金属材料のプロセス・組織・特性の分析
	講演3(外部講師)	産総研中国センターに設置された MPI 有機・バイオ材料拠点の概要と取組のご紹介
第2回	テーマ	金属の表面処理技術について
	講演1(部会員)	金属表面処理の体系図と概要
	講演2(外部講師)	めつき業界でニッチ・トップを目指す株式会社光洋金属防蝕の取組み
	講演3(外部講師)	表面処理の魅力



図-2 産総研 中国センター見学会(2024 年度)

講演会の参加者は 2019 年度まで中国本部の会員がほとんどであったが、2020 年度からオンライン形式、2022 年度から集合・オンライン併用形式となったことから、近畿や中部などの他の地域本部からの参加者も増えてきている。

しかしながら、次のような課題が残されている。

- ・毎年の例会の参加者が 10~20 名と部会員（2024 年で 67 名）の 1/3 未満である。
- ・部会活動は、ほぼ幹事のみで行われ、幹事以外の部会員の参画がほとんどない。
- ・部会の行事については、中国本部の他部会や他の地域本部等からの参加者が増えているが、技術士以外の一般の方々の参加がほとんどない。

### 3. これからの 10 年の活動について

このような課題を克服し、当部会を技術士会のみならず、中国地方をはじめとした一般の方々に広く知られ、頼られる存在とするため、まず、「知名度の向上」を目指したい。

このために次のような方針で活動を行っていく。

- ① 講演会については、技術士会員のみならず、一般の方々にも参加頂けるものとする。そのために次のような内容としたい。
  - ・時流に即したテーマを選定する。
  - ・講演内容については、公益性を優先し、単なる先端技術、研究の紹介のみならず、それが社会に及ぼす影響についても考慮に入れ、客観的、公平なものとする。

・講演会場については、当面中国本部のカンファレンススクエア+オンラインとするが、参加者を増やし、広島市文化交流会館など一般の方が集まりやすい会場で実施できるようにしたい。

・技術士会員以外の一般の方々への広報手段として、PR TIMES や地元新聞、広報誌の活用を検討する。

- ② これまで実施してきた勉強会をさらに活性化する。最近の技術開発や社会問題をテーマとして掲げ、興味がある会員が集まって、勉強会や研究会を結成し、成果を発表する。本活動により、会員の資質向上、会員間の交流促進に寄与したい。

### 4. おわりに

以上、化学／繊維／金属部会のこれまでの 10 年の活動を振り返り、そして今後の 10 年の活動について思うところを述べた。

化学、繊維、金属の分野にまたがる我が国の素材産業は、「高付加価値品を中心に高い製造技術を持つことで知られ、日本の産業競争力の源泉の 1 つとなっている。」<sup>1)</sup>。

一方、ダイオキシンや環境ホルモン、最近は PFAS などの化学物質による環境汚染などは、社会に与える影響が大きい。そのため、社会への情報発信については、不安を過度にあおり、不必要的社会的費用を増大することがあってはならない。公益確保の責務を有する技術士が、自己研鑽を重ね、客観的かつ公平な情報発信を行っていくことにより、社会に頼られる存在として、当部会の知名度の向上に寄与したいと考えている。

### 5. 引用文献

- 1) 「60 秒早わかり解説 脱炭素時代を勝ち抜く一新・素材産業ビジョン」  
経済産業省 METI Journal ON LINE  
2022/06/07 (2025. 3. 2 確認)

2025 年 3 月記